



消えた長湯飲みを追え!

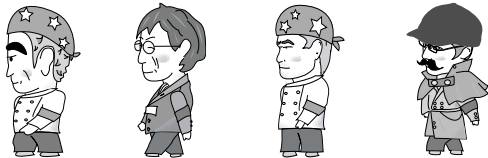
冬が訪れ、寒さが身にしみてくるとカフェテリアルネのお鍋コーナーが賑わいを見せる。そこに探偵君の姿もあった。

探偵君「いや～、寒い時はルネのお鍋だよな～♪ そして、湯飲みは長湯飲みに限る！ …けど最近は全然見ないなあ」
 店長「そうなんだよ。組合員の要望で長湯飲みを400個も入れたのに、いつのまにか残りはたったの十数個…」
 探偵君「あ、店長。どうしてなくなったんですか？」
 店長「よくわからないんだけど、ルネ周辺のBOXにトレーごと食器を持って行って返さない人がいるみたいなんだ。よかったら一緒に探しに行かないかい？」
 探偵君「ぜひとも参加させてください！ お気に入りの長湯飲みのためなら頑張ります！」
 店長「よし、じゃあ仲間を集めて搜索の旅に出発しよう！」

こうして、探偵君と店長は栄養士とルネ麺コーナーのヒゲを仲間に加えルネ周辺のBOXへと搜索の旅に出発したのであった。



栄養士「こんにちは～。ルネの食器を探しに来ました～。食器回収隊でえ～す♪」
 部員「え？ ここにはないですけど…」
 店長「うーん、なかなかないもんだなあ」
 探偵君「仕方がないですね。次へ行きますよ。次へ」



探偵君「お、外に落ちてるこの見覚えのある食器は♪」
 店長「うちの食器だね。ちょっといいかい、回収していくよ？」
 部員「あ、すいません。返しに行くのを忘れてて…」
 店長「はっはっは、別にいいんだよ。返してくれば。今後もカフェテリアルネをよろしく頼むよ」

そして、搜索は一時間以上に及んだ。

-DATA-



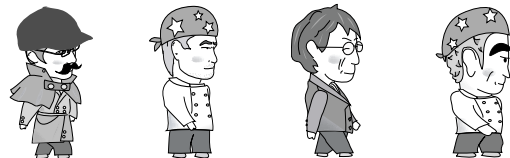
◆名前：ルネの長湯飲み

◆全長：9 cm ◆直径：8.2cm

◆価格：約215円 ◆総数：400個

◆メモ：湯飲みの突然変異種。出現直後から密猟の被害に遭い、現在では絶滅危惧種に指定されている。

探偵君「50箇所以上のBOXを回ると、かなり疲れますね」
 栄養士「塗料入れや吸い殻入れとして使われている食器があったのは驚きだったわね」
 ルネ麺コーナーのヒゲ「えーっと、結果は…」



-搜索结果-

長湯飲み：2個

食器類全部で68点を回収

(内訳＝湯飲み(小)：27個、お箸：13本、トレー：6枚、ビールジョッキ：2個など)

探偵君「頑張りましたが、長湯飲みは2個しかありませんでした。これで残る行方不明の長湯飲みの数は…、ふう…」
 店長「とりあえずお疲れ様。よし、今日は頑張ってくれたからみんなにルネ自慢のパフェをおごってあげよう」
 一同「わーい♪」

探偵君と店長と栄養士とルネ麺コーナーのヒゲの長湯飲みを搜索する果てしなく長い旅は始まった。カフェテリアルネに長湯飲みが復活する日はそう遠くない…かもしれない。